

次年産の水稻の収量増加に向けて！稲刈り後は「秋起こし」をしましょう！

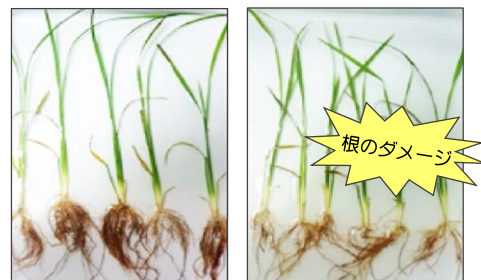
秋起こしのメリット

1 稲わらの腐熟促進によるガス湧きの軽減

水稻の作付け中、気温の上昇とともに土中の微生物による未熟有機物（稲わら）の分解が活発になり、その際に有毒な硫化水素などのガスが発生し、稲の根傷みや生育不良を起こすことがあります。

秋起こしにより、稲わらを土中にすき込み腐熟を促進させ、次年産の水稻の作付けまでにしっかり分解させることが重要です。

出典：(株)ファーム・フロンティア



健全な稲

ガス湧きにより根傷みを起こした稲

2 稲わら由来の養分の土壌へのすき込み

稲わらには、ケイ酸などの水稻の生育に必要な養分がたくさん含まれています。

秋起こしにより、稲わらを土壌にすき込むことで、土壌を肥沃にする効果があります。

3 ジャンボタニシの駆除

ジャンボタニシは土中に潜って越冬します。耕起する際は、ロータリーの回転数を速くし、ゆっくり走行することで、土中に潜むジャンボタニシを粉碎・駆除し、越冬数を減らす効果も期待できます。



秋起こしのポイント

POINT 秋起こしは稲刈り後すぐ実施しましょう！

稲わらの分解を行う微生物は、気温が15℃を下回る12月～3月頃は活動が弱まってしまうので、稲刈り後すぐに秋起こしを行うことで、稲わらの腐熟に十分な期間を確保することができます。

POINT 浅めに起こして土壌に酸素を補給しましょう！

秋起こしをする際は、10cmくらいの深さで起こすことで、土壌に酸素が取り込まれやすくなり、稲わら分解微生物の活動が活発化することで、腐熟効果を増大させることができます。

また、水はけの悪い圃場では腐熟が進みにくいため、排水対策を行い乾田化させることが重要です。

POINT 腐熟促進資材や土づくり肥料を活用しましょう！

稲わらの主成分は、セルロースやリグニンなどの分解されにくい繊維質であるため、秋起こしの際に腐熟促進資材などを活用すると、より効率的に分解を促進させることができます。

酵素資材

アグリ革命 など

【特徴】

- ・気温や土壌環境に関わらず使用ができる
- ・稲わらの主成分であるセルロースを分解する酵素を含む



微生物資材

- ・ワラ分解キング
- ・分解ヘルパーアクア など

【特徴】

- ・低温時でも効果を発揮する
- ・微生物の働きにより稲わらの主成分であるセルロースを分解する



石灰資材

石灰窒素 など

【特徴】

- ・アルカリ分によるpH矯正により微生物が活動しやすい環境をつくる
- ・窒素成分を餌にして微生物の活動が活発になる



◎秋起こしの際に、アルカリ分やケイ酸を含む「土づくり肥料」を施用することも効果的です！
(農力アップけい酸Plus+、けい酸加里プレミア34など)